

実施報告書

現地集合型研修



1. 目 的

地域国際化協会における広域連携は、基本的に各ブロック内を想定しており、東日本大震災のような大規模広域災害の発生により、ひとつのブロック内で複数個所が同時に被災した場合、他のブロックからの応援が円滑に進むようブロックを超えた応援想定と顔の見える関係づくりを進める。

2. 業務内容

全国の地域国際化協会職員を対象とした広域での災害時外国人支援に関する研修の実施に係る以下の業務

- (1) 日程・会場決定
- (2) 研修企画・事前打ち合わせ
- (3) 会場手配
- (4) 申込依頼・参加者とりまとめ、参加者名簿の作成
- (5) 研修の資料準備
- (6) 研修の物品等準備
- (7) 会場設営
- (8) 研修の実施
- (9) 講師への支払い
- (10) 報告書作成

3. 実施日時・会場

日時：令和6年8月19日（月）13時～16時半

会場：東京体育館 第一会議室（東京都渋谷区千駄ヶ谷1丁目17-1）

4. 対象・定員

地域国際化協会職員・60名程度

5. 研修テーマ

- ①能登半島地震事例紹介 ②発災前の備えに関する取組共有等

6. 実施内容・スケジュール

挨拶 （一財）自治体国際化協会 理事 小池 潔 氏

講義 「令和6年能登半島地震における対応・支援体制について」

（公財）石川県国際交流協会 櫻井 真由子 氏

グループディスカッション「2023改訂版手引きの活用」

（特活）多文化共生マネージャー全国協議会 代表理事 土井 佳彦

《プログラム》

時 間	内 容
12:30～13:00	受付
13:00～13:10	開会 主催者挨拶、趣旨説明等
13:10～14:20	【講義】令和6年能登半島地震における対応・支援体制について (公財)石川県国際交流協会 櫻井 真由子氏 ・講義 (50分) ・質疑応答 (20分)
14:20～14:30	<休憩>
14:30～15:40	【グループディスカッション】2023改訂版手引きの活用 ・諸説明 (5分) ・グループディスカッション (60分)
15:40～15:50	<休憩>
15:50～16:20	【グループディスカッション】続き ・全体共有・質疑応答
16:20～16:30	講師講評 (10分)
16:30	閉会

《全体進行》柴垣 禎 (NPO 法人多文化共生マネージャー全国協議会 理事)

7. 実施結果

前半の講義では、講師より令和6年能登半島地震発災直後から3か月にわたる災害多言語支援センターの活動について、詳しい話を伺うことができた。また、その経験を踏まえて今後どのように災害時対応や平時の取り組みを充実させていくかについても発表があり、参加者にとっても学びの多い時間となった。

後半のグループディスカッションでは、参加者各自が事前に記入して来た『手引き 2023』のワークシートをもとに、具体的な記入方法・内容等を確認したうえで、今後取り組むべき点等について議論がなされた。ワークシートについても具体的な改善提案が得られたことで、今後の手引き自体のバージョンアップにも反映していきたい。

全体を通じて、参加者の満足度が非常に高い研修であった。今後も時宜にかなったテーマを取り上げ、関係者のスキルアップとネットワーク強化に努めていきたい。

8. 参加者名簿

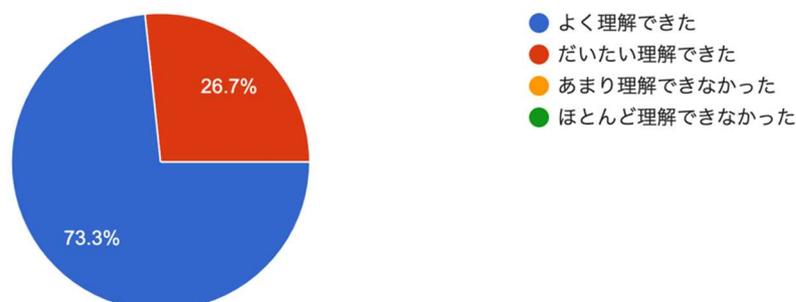
地域ブロック	都道府県	団体名	人数
北海道・東北	北海道	(公社) 北海道国際交流・協力総合センター	1名
	青森県	(公社) 青森県観光国際交流機構	1名
関東	茨城県	(公財) 茨城県国際交流協会	1名
	埼玉県	(公財) 埼玉県国際交流協会	2名
	東京都	(公財) 東京都つながり創生財団	1名
東海・北陸	静岡県	(一財) 静岡市国際交流協会	1名
近畿	滋賀県	(公財) 滋賀県国際協会	1名
	大阪府	(公財) 大阪府国際交流財団	1名
		(公財) 大阪国際交流センター	1名
	兵庫県	(公財) 兵庫県国際交流協会	1名
中国・四国	島根県	(公財) しまね国際センター	1名
	山口県	(公財) 山口県国際交流協会	1名
	香川県	(公財) 香川県国際交流協会	1名
	愛媛県	(公財) 愛媛県国際交流協会	1名
九州・沖縄	福岡県	(公財) 福岡県国際交流センター	1名
	宮崎県	(公財) 宮崎県国際交流協会	1名
	沖縄県	(公財) 沖縄県国際交流・人材育成財団	1名



9. 参加者アンケート結果

*回答者 15名 (回収率 75%)

Q1. 講義「令和6年能登半島地震における対応・支援体制について」の内容は、ご理解いただけましたか？



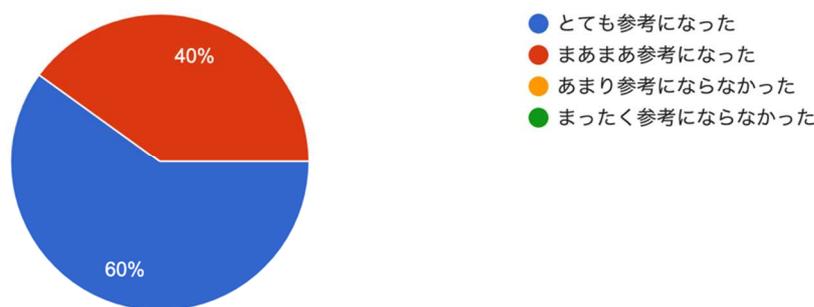
Q2. 講義「令和6年能登半島地震における対応・支援体制について」に関して、ご感想等ありましたらご自由にお書きください。

- 質問しそびれたのですが、専門家による相談会は普段から実施されていたのか、もし普段から実施していないのであれば、どうして相談会をすることになったのかの経緯を聞きたかったです。
- 交通・通信の断絶、市町村国際交流協会がない等の状況は悲痛でしかない。しかし、そこからの学びとして、特異なものと考えず(起こり得ると考え)、マニュアル通りにならない状況の想定と対応策が大切と感じた。ややもすると、「仕方がない」、「日本人と同じ支援」というマジョリティの声が本県では聞こえてきそうなので、その中で多文化共生や災害時外国人支援について共感できる関係者を日頃つくっておくことの必要性を感じた。
- よく理解できたが、手元資料にないスライドはもう少しゆっくり見る時間があれば良かった。
- 職員数が少ない中、外部支援を受けながら、大変な苦労をされたのがわかった。当協会の体制や県の状況が石川県と類似しているのので、本県で同様の事態が発生したら対応できるだろうかと心配になった。
- 混乱している中での情報収集の大変さが印象に残った。有事に連携を普段から市町村の関連機関や日本語教室など関係性を構築しておくことが大事だと感じた。
- 実体験をお話しいただき、勉強になりました。災害時は臨機応変な対応が必要であるということ、平常時からの各種関係機関との連携が大切だと思いました。丁寧なご説明でわかりやすかったです。ありがとうございます。
- 災害が起きるときは、訓練と同じ状況とは限らず、いろいろな状況を想定し、準備しておかなければいけないと感じました。石川県国際交流協会の皆様が日頃から、訓練を行っていたからこそ、不測の事態となっても対応できたのだと思います。
- 具体的な内容で分かりやすく、参考になりました。今後論文など学術的な考察や分析が公開されると思いますが、情報共有していただければ幸いです。
- 災害多言語支援センターの活動は、大変参考になりました。地震発生翌日に多言語支援センターを開設したことは、迅速な対応だと思います。多言語支援センターの運営に関するベテラン職員が不在であったことや、外国人スタッフが帰国していたことは大きな課題だったと思います。しかし、タ

ブマネさんやクレアさん、東海北陸ブロックさんの後方支援を獲得できたことは、平時からのつながりの結果だと感じます。緊急車両の優先通行や上下水道の破損により、被災地での直接的な活動が困難だった中で、被災地にいる関係者ネットワークを駆使して外国人の被災状況を把握したことは、とても参考になります。

- 事前にアンケートで情報発信の許可を得ていた外国人に対してメールで情報を発信したことも、平時からの取り組みの成果だと思います。
- 外国人の被災状況が把握されないと「困っていない」と誤解されるリスクもあるとのこと、ここがキーセンテンスだと思います。
- 被災した外国人向けにオンライン日本語クラスを早期に開始し、社会とのつながりを確保したことは、非常に参考になる取り組みです。
- 沖縄県でも、平時からのつながりを大切に、災害時に迅速かつ効果的な支援ができるよう、外国人への防災教育等の強化を進めていくことが重要だと感じました。ありがとうございました。
- 「被災地に入って聞き取りができない」という状況を聞いて、ご苦労が多かっただろうと想像しました。そういう状況を踏まえて、支援の方法を考えていく必要があると感じました。
- 関係者間の認識が異なっていたことや能登と金沢での対応の違い等、実際に起こらなければ気付かないこともあることを学べた。
- 被災地域との連絡が取れなくなった際に、どのような対応が必要となる/できるのかを改めて考える機会となりました。経験をご共有いただくことにより、各地の協会が災害への備えを強化するきっかけを今後も提供していただきたいと思います。
- 大変わかりやすくお話しいただきありがとうございました。その時の災害の状況次第で、できることも変わるといことで、日ごろからの準備をしたうえで状況に合わせて対応すること、日ごろからの関係づくりの重要性はよくわかりました。

Q3. グループディスカッション「改訂版手引きの活用」は、今後の業務等の参考になりましたか？



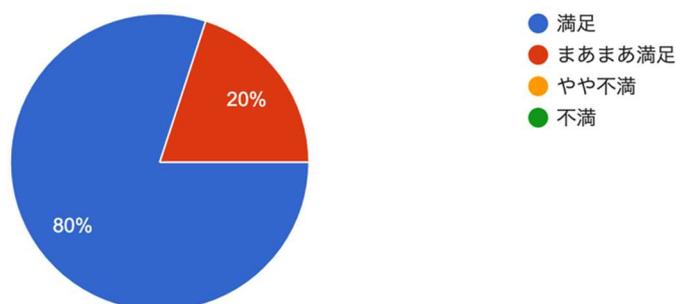
Q4. グループディスカッション「改訂版手引きの活用」に関して、ご感想等ありましたらご自由にお書きください。

- ディスカッションできたのはよかったのですが、グループの人数がもっと多ければよかったかな？と思います。
- 意見交換する中で、他県の事例で進んでいることの”差”を感じる部分があった。ちょっとした差が大きな結果の違いを生むということを今回感じた。(例: Google ドライブが行政は使えないかもしれない)

い(という想定どまり)→Google ドライブが使えないかもしれない、ので、そういうときどうするか行政と打ち合わせた)

- 他協会と活発に意見交換し、情報を得る良い機会になった。
- 各都道府県で状況の違いがあり、その体制や災害の状況で対応が変わってくるので、最後は臨機応変にということだが、平時から対応について関係者間で情報共有を行うことの重要性がわかった。
- 他の地域での取り組みを知ることができ、参考になる意見もあってとても有意義だった。また、書くことが難しそうな内容でも考えることに意味があることがわかった。
- 各団体の状況がかなり違うことと、広範囲に渡る話だったため、ディスカッション中の話があちこちに飛んでしまったが、同じようなことで皆さん悩まされていたので、その情報を共有できて良かったです。
- それぞれに地域の特徴があり一概に比較できるものではありませんが、基本的に手引きの空欄を完成させていく作業を通して、自分たちの地域の状況を正しく判断し、足りない箇所や追加した方が良い箇所などを確認し、更に他地域を参考にしたいと思いました。
- 話す内容としては情報・意見交換を通して勉強になりました。進行については、初めて顔を合わせる人たち、地域事情も多様ですので、ディスカッションの道標になるフォーマットなどがあれば話を進めやすかったかもしれません。
- 他の協会さんも同じような課題を抱えていると感じました。災害時の外国人支援は、平時からの準備やネットワークの構築が非常に重要です。しかし、周囲の理解はまだ及ばず、そこを担う人材は孤立しがちです。お互いに情報や経験、ノウハウ、課題を共有し合うことで、より効果的な支援体制を築くことができると思います。
- 探せなかったデータの出典元がわかってよかった。基本データなど常に把握しておきたい。
- 災害多言語支援センターをもっていない団体にとっても使えることをアピールされるといいと思いました。
- 他団体の事情を当センターの対応について相談することができ、有意義だった。
- 今回、1人欠席で、3者でのディスカッションでしたが、他の2者が県の協会であったため、状況が大きく違っていた。地域の状況などは聞いていて学ぶところはありましたが、グループワークをする際は、できれば政令市同士のグループとしていただくと、より他団体から学ぶことが多くあるのではないかと考えます。
- 手引きの活用方法について、内容や必要性については理解できますが、課題としてあった担当者以外との情報共有、認識の共有について、職員に限られ日々の業務に追われている中で全員の時間を取るのは難しいこと、全員に効率的効果的に伝えるための担当者の準備の時間も十分に取れないことをどのようにしてクリアしていくかが、課題のまま残ってしまいました。

Q5. 本研修全体を通じての満足度をご回答ください



Q6. 本研修全体を通じてのご意見や感想をお聞かせください。

- 手引きを使ってみるというのはよいのですが、限られた時間の中なので、石川県国流さんが特に必要だと思った情報などに関連するシートについて、深堀するのでもよかったかなと思います。
- 地域国際化協会職員である受講者が、自分の地域で行政(多文化共生主管課・防災危機管理課)、民間(日本語ボランティア教室など)などに広めていくべき立場なのだと思う一方、協会職員の立場で背景ゼロベースの行政職員に対し説法を解く立場にないし理解も促せないの、行政職員も外部講師から同じような研修を受けてほしいと思う。
- 実際に活動された方のお話を直接聞いたことはとても参考になりました。
- 内容はとても良かったのですが、できれば週末に近い曜日での開催だとありがたいです。
- 対面で自由に意見を交換し、顔の見える関係を築けて、有意義な研修だった。
- ふだん交流することがない他県の皆さんと知り合え、同じような悩みや課題を共有することができた。また、石川県の事例は他人事ではなく、もし自分の県で起こったことだと想像すると、センターの現運用も課題がたくさんあると感じた。完璧なものではないが、このような場で様々な意見を聞いて見えてくる課題を少しずつ修正しながら有事に備えられるように取り組んでいきたいと感じた。
- 何かしなければという思いはある一方、実際に県協会として何ができるか不安な部分も多いのですが、普段から災害時の対応としてどんなことが必要か考えを巡らせることが大事だと思いますので、引き続き研修等に参加をしていきたいと思います。
- いろいろな県のご担当者のお話を聞くことができ、とても刺激になりました。東京が思いのほか湿度が高く、もしもこんな時期に災害が起き、停電によって空調の無い中、避難所生活を送らなければならなくなったら、あるいは、青森のような雪国で同様に避難所生活を送らなければならなくなったら・・・ということに思いを馳せました。備えるということは、常に最悪を想定しなければいけないと感じました。
- 現地集合型ということで、同じグループの方をはじめ、他のグループの方や講師の先生などにタイミングを見てお話を伺うことができたのがとても良かったです。
- 今回参加できましたが、遠方から行くのは難しいことが多いです。今回のような講義を聞く機会もなかなかありません。オンラインで発信していただければ幸いです。
- 事前学習のワークシートを埋める段階で、考え立ち止まる時間が長かったです。これまでこのような整理はなされていなかったので、災害時外国人支援の担当者が私一人という中で、国際交流課長と長時間意見を出し合いました。やっとスタートラインに立てたような気がします。

- 4月に担当者になり、手引きをご紹介いただき、大変助けられました。ありがとうございました。
- 対面研修ならではの良さを感じました。参加させていただき、本当に良かったです。
- 状況など各県で違うため、よい対応や取り組み等があっても、そのまま当県で取り入れることは出来ないが、それをヒントにいろいろ考えることができるので、研修に可能な限り参加し勉強していきたい。
- 短い時間でしたが、全国の国際交流協会の人と情報交換ができる貴重な機会ですので、継続して行ってほしいです。
- 災害時の外国人対応について、知らない部分が多かったが、基調講演からオンラインでの講義、現地での研修と、回を重ねるたびに自分の中での知識が深まったように感じた。災害対応はどれだけ準備をしても足りないが、準備をするに越したことはないと改めて考える機会になった。
- 今回の研修で、事前にワークシートをうめる作業を行いました。データの重要性を改めて感じる事ができました。職場でも、職員全員で情報を共有し、外国人住民等の置かれている状況をデータから把握することに努めていきたいと思えます。貴重な機会をいただき、ありがとうございました。
- 石川県の状況や対応について、詳しく聞くことができ大変参考になりました。現地集合型研修ということで、いろいろな参加者の方とお話することはできましたが、集合研修の良さをもう少し感じられるとよかったです。オンラインで同じことをやってもあまり変わらない気がしますし、もう少し参加者が多いと嬉しいです。

Q7. その他、今後の「災害に外国人支援に従事する関係者向けの研修」事業において取り上げると良いと思う内容等があればお聞かせください。

- せっかく地域国際化協会が参加するのであれば、広域支援についての研修があってもいいのでは？
- 災害に関する基本的な内容や関連する法律などについて確認するという意味でオンラインでもいいので開催していただけたらうれしいです。
- 災害を経験していない者にとっては、経験した人のお話を通して疑似体験するしかありません。支援者だけでなく、支援された方、支援してもらえなかった方などの声も聞きたいです。
- 災害多言語支援センターはいろいろカタチがあると思うので、どのような体制でセンターを運営するのか、そのためにどのような訓練をしているのかを知りたいです。
- 災害が起きた後に、その経験を共有していただける時間はとても大切だと思うが、各協会が災害に備えてどのように準備しているか、自治体との関係など、今後に備えるために必要なことも共有していただくことが重要だと思います。自分たちの備えを改めて見直すことができ、今後、不足していることに対応することができるようになると思います。

10. 記録写真

<開会挨拶>



<講義：櫻井氏>



<質疑応答>



<グループディスカッションの説明：土井>



<グループディスカッション>



<全体共有・質疑応答>



以上